

地球号事務局員 久我教之（くがっち）から、なんと大学のレポートそのままの投稿です。

正しい肌着の洗たくの仕方について、留意する点を説明します。（何故？）

久我教之（くがっち）

総論・肌着の重要性

我々人間は、恒体温の動物であるから、生活環境の条件が変化する中であっても、体温を一定に保っておく必要があるのである。また、我々の体が、生きて活動していることによって、皮膚に分泌物すなわち汚れを吸収して、常に皮膚表面を清潔にしておく役割が被服に求められているのである。特に、この保温や清潔について、重要な役割を果たしているのが、肌着である。このように、我々の健康を維持するために、肌着は大切なものなのである。

洗濯による環境におよぼす影響の留意点

自分の生活が地球環境に大きな影響を与えているという意識をもつべきである。つまり、自分の身の回りを清潔に、快適にすることが、環境を破壊しているのではないかというチェックを怠ってはいけないのである。

洗濯において、効率よく汚れを除去する方法を求めると同時に、その洗濯排水が自然環境に悪影響を与えていないかという点検の目を忘れてはならない。もし利便性があつたとしても、水系にマイナスの影響を与えるのであれば、多少の不便さをあえて受け入れていくという選択をするか、最小限の範囲内で利用するかなど判断が求められている時代である。近視眼的に自分の生活を大切にす立場からだけでなく、広い視野から、人類の将来を、地球全体を展望した上で、自分の生活を守ることが求められている。

肌着の手入れの必要性

汚れには、ほこり、どろ、化粧品、機械油などのように生活環境に起因するものと、身体からの汗や皮脂などの分泌物や角質化した皮膚の老廃物などがある。特に肌着類に付着するのは、後者の汚れである。汚れが付着すると、被服は吸水性の面などから機能は低下する。さらに汚れの付着は、保険衛生上好ましくなく、汚れ成分の変質による黄変、細菌やかびの繁殖、悪臭、繊維の劣化や着色、染色物の変体色などのトラブルを生じるのである。故にこまめな洗濯をして清潔に保つことが必要となるのである。

肌着の洗濯方法

1・繊維の種類・色・衣類の種類・形・用途などによって分類する。

綿の肌着は、洗濯に強いので石鹼や弱アルカリ洗剤を使って、手もみ洗いや洗濯機の強水流で洗い、ブラウスなどは、中性洗剤を使い弱水流で洗うことがもとめられる。このように同じ条件で同時に洗濯できるものを集めて、効率よく効果的に洗濯する必要がある。

2・効果的な洗濯をする。

そしてなにより汚れたら、はやく洗濯することが大切である。汚れた被服を放置しておくとも汚れが落ちにくくなる。高温多湿な環境に置いておくほど、汚れが落ちにくくなるのである。その他にも下記の留意すべき点があるのである。

- ・ 予浸と予洗をする（汚れが落ちやすい）
- ・ 洗剤液の量（洗濯機では1:15-20、手洗いでは1:10-15の浴比が適当）
- ・ 洗濯液の温度（エネルギーの節約、手で洗うことなどから、30-40度が最適）
- ・ 洗剤の濃度（適量）
- ・ すすぎの方法
- ・ 脱水の方法（遠心脱水で、ある程度、水分を残した状態で形をととのえる。）
- ・ 乾燥の方法（洗濯物を広げ、風通しの良い日陰干しがよい。）

以上のように効率のよい肌着の洗濯は、各過程において注意が必要である。

検証

我々消費者は、どのような洗剤を選ぶかということと同時に洗剤の使用量を、合理的にどこまで減らせるかを考えることが、環境資源を守る洗濯には必要である。

（生涯学習時代の社会に開かれた大学。仏教大学通信教育 家庭科概論のレポートより）

